

平成30年度

「言語聴覚の日」イベント報告



長崎県

一般社団法人長崎県言語聴覚士会では、8月26日（日）に「言語聴覚の日」のイベントを開催しました。場所は長崎県第二の都市である佐世保市中心部にある四ヶ町アーケード。当日は某テレビ局の24時間テレビやアメリカンフェスティバルといった大きなイベントも開催されており、大いに賑わいをみせていました。佐世保の参加スタッフは広報局スタッフを中心に、県北のスタッフや長崎地区の新人など、計12名で行いました。この時期の懸案である酷暑でしたが、当日は幸い湿気も少なく、アーケード内ということもあり、快適に活動する事が出来ました。

さて、活動時の様子について述べます。設営の際より、家族連れの方から声掛けがあり、「子どもが言語聴覚士の学校に進学する予定だ」や「言語聴覚士になるにはどうしたらよいの？」といった質問がありました。

徐々に職業としての認知が高まっている印象を受けました。安定職といった印象もあるようです。

活動内容については、（言語聴覚士について印刷されている）ティッシュ配り、相談、職業や領域の発信といったものが主です。活動時間は約2時間ですが、準備した沢山のティッシュは一時間程度で無くなる程でした。逆に準備したブースでの相談件数は少なかったように思います。総括すると、「言語聴覚士」を知ってもらう活動になりましたが、「言語聴覚士とは」といった活動までには至らなかったようです。しかしながら、まだまだ数少ない言語聴覚士を認知して頂くには良い機会であったと感じました。

私の方では、佐世保のケーブルテレビより取材を受け、四苦八苦顔を赤くしながら何とか撮影を終えました。言語聴覚について熱く語っていたのではないかと思います。

「言語聴覚」について、言語における《心象性》はまだ高いものとは言えませんが、大変魅力の高い仕事だと感じています。他リハビリ職から「アピールの少ないST」と言われますが、世間的な需要はますます高まっています。言語聴覚の活動をよりよくしていく為に日々の発信が重要です。

私は広報局の理事となって2年目です。県士会ホームページの更新回数や、Facebookへの投稿回数を増やし、また学術集会などのチラシを作成しています。会員の方への情報量・質ともに高いものを発信し、また、こういった媒体を通して活動を理解して頂くと共に、双方向性にコミュニケーションが行えるように努めています。

一般社団法人 長崎県言語聴覚士会
広報局 理事 増田 廣介（十善会病院）



参加スタッフ全員での集合写真



ブースでのパンフレットの配布



相談